

授業概要

一般に企業は私的な利益の稼得を目的として組織されるが、企業経営の具体的な姿は、国により時代によって、実に多様である。この講義では、産業革命期のイギリス企業から身近な近年の日本企業の動きまで、できるだけ多くの具体的な事例を取り上げて学習意欲を喚起し、同時に専門的に経営学や会計学を学習するために欠かせない企業経営の基本的な職能（労務、生産、販売、財務）分野に関する基礎的な知識を学び取ってもらうことを目指す。

授業計画

第1回	オリエンテーション：講義の目的・概要、授業の進め方、評価の方法等について説明する	
第2回	第1章：経営史研究の課題と方法	第1節 研究対象としても企業
第3回	第1章：経営史研究の課題と方法	第2節 経営史研究の特質
第4回	第1章：経営史研究の課題と方法	第3節 国際比較の枠組み
第5回	第2章：労務管理と労使関係	第1節 イギリスの産業革命
第6回	第2章：労務管理と労使関係	第2節 日本の産業革命
第7回	第3章：生産管理と大量生産体制	第1節 アメリカにおける大量生産方式の発展
第8回	第3章：生産管理と大量生産体制	第2節 自動車産業史の日米比較
第9回	第4章：流通機構とマーケティング	第1節 流通機構の国際比較
第10回	第4章：流通機構のマーケティング	第2節 日本企業のマーケティング
第11回	第5章：株式会社制度と財務管理	第1節 銀行の役割と株式会社制度の発展
第12回	第5章：株式会社制度と財務管理	第2節 「経営者企業」の成立とその転機
第13回	第6章：企業経営の国際化	第1節 「多国籍企業」の発展
第14回	第6章：企業経営の国際化	第2節 日本企業の国際化
第15回	終章：総括と討論	
第16回	期末試験	

到達目標

専門的に経営学や会計学を学ぶ学習意欲の喚起と基礎的な知識の習得を目指す。

履修上の注意

自筆ノートの作成を強く薦める。講義の要点を自分の文章で簡潔にまとめるという作業は、最も効率の良い学習方法だからである。

予習復習

予習のために参考文献を2点あげてある。
復習には自筆ノートと配布資料を利用して欲しい。

評価方法

期末試験の成績に、出席状況（出席率 2/3 以上）と小テスト（3回予定）の結果を加味して評価する

テキスト

参考文献：鈴木・大東・武田『ビジネスの歴史』（有斐閣 2004年）
米倉誠一郎『経営革命の構造』（岩波書店 1999年）
2冊とも図書館に所蔵されているので、必ずしも購入する必要はない。